

2024年(令和6年)度
一般編入学試験 A日程 問題
小 論 文

2023年11月26日 実施

【解答上の注意】 答案は別紙解答用紙に、左横書きで書いてください。

この問題用紙の余白や裏面を下書きなどに利用してもかまいません。

《課題文》

道徳的義務としての「すべき」であれば、「できる」を含意しなければならない、と一般に言われる。というのも、道徳的義務には、それに対する違反が非難に値するということが不可分に結びついているからである。それこそ、泳ぐことのできない人に対して「溺れている人を助けに行くべきだった」と非難することは適当ではない。したがって、道徳的義務としての「すべき」は、『できる』を含意する」という看板を下ろすことはできない。それに対して、倫理的目標としての「すべき」は、必ずしも「できる」を含意している必要はない。

— 中略 —

そして、「道徳的義務としての『すべき』は『できる』を含意しなければならない」という建前から離れて実情を見るならば、これまで何度か確認してきたように、道徳的義務をすべて履行することは実際には過大な要求と言える。つまり、実際には道徳的義務としての「すべき」ですら、「できる」を含意しているとは言いがたいのである。これが、それこそ聖人の教えに従うといった話になってくると、「すべき」と「できる」の乖離はさらに大きくなる。たとえば、いわゆる「山上の説教」において、「誰かがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい」と語り、「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」と勧めるイエスの教えを、文字通りに貫徹することは至難の業だろう。また、煩惱を滅却したブッダの生き方と同じ道を辿りきれぬ人もまずいないだろう。しかし、そのことによって、彼らの教えに従いきれない人が非難されることはないだろうし、また、彼らの教えには価値がないということにもならないだろう。むしろ、近代ドイツの代表的な社会学者マックス・ウェーバー(1864~1920年)がそう強調するように、「可能なものの彼岸にある不可能なものをつかもうとすることによってのみ、きわめて多くの場合、可能なものが達成された」のであって、たとえ現実にはやりきることができなくても、少しでもそれに近づいていこうという努力を喚起するような人生の目標というものも存在する。非難可能性と強力に結びついた意味での「道徳」という観点から離れ、いかに生きるべきかという問いを含む「倫理」の観点から「すべき」という事柄を捉えた場合には、「できる」は必ずしも決定的な条件とはならないのである。

最後に、以上のようなかたちで「道徳」と「倫理」を区別するのはそれほど恣意的なことではなく、根拠があると言えなくもない、という点を付言しておきたい。たとえば、脳死臓器移植の問題や尊厳死、安楽死の問題、生命の操作をめぐる問題などのいわゆる「生命倫理」の問題、それから、情報技術や原発などをめぐる「科学技術倫理」の問題などは、「倫理的な問題である」とは言われるが、「道徳的な問題である」とはあまり言われまいだろう。このことから窺えるのは、まさしく現在進行形の難問——皆が一致するような定まった答えがあるわけではないが、我々の生き方にとって重要であり、考え抜かなければならない問題——を、我々は「倫理」という概念の圏内に位置づけるのではないか、ということである。他方、「道徳」という概念には、共同体の中で比較的長い時間をかけて定着してきた習慣(慣習、風習、習俗)に類したニュアンスがあるように思われる。たとえば、現代アメリカの哲学者アンソニー・ウェストンも、道徳的価値を「自分自身が求め望むだけでなく、他人もまた同じく求め、当然望むはずの価値」として特徴づけた上で、道徳と倫理の違いを次のように指摘している。

「倫理」と「道徳」はしばしば同じ意味で使われる。しかし、その違いを念頭に置いておいた方がよいだろう。道徳的価値は、生活の中で時間をかけて吟味され、不都合が見つかったならば必要な修正を施すというかたちで、ゆるやかに身についてきたものである。他方、「倫理」という語はもっと批判的で自覚的な鋭さをもっている。倫理において、価値を生きることから価値について考え抜くことへと、踏み出すことになる。

(古田徹也著『それは私がしたことなのか：行為の哲学入門』より)

《問題》

課題文を読み、以下の指示に従って答えなさい。

(1) 筆者は「倫理」について、「道徳」とどのような点で異なっていると考えているか。

200字以上300字以内で解答欄①に書きなさい。

(2) 次の問いへの答えを、300字以上500字以内で解答欄②に書きなさい。

問：人が価値ある生き方をするにはどのような倫理観を持つべきだと考えるか。

筆者の見解を踏まえつつ日常生活に即して自らの考えを述べなさい。